

第3回 理数科出前講座「サイエンス ダイアログ」 を実施しました

2月4日(木)7限 理数科1,2年生を対象に外国人研究員の方から、専門分野の研究について英語で話をお聞きしました。

講師 : Dr. Jacob Richard. HAUSER(Mr.)

京都大学工学研究科 合成・生物化学専攻 浜地研究室

題目 : Chemical Tools for Native Protein Modification

当初は対面による講義を予定していましたが、コロナによる緊急事態宣言を受け、オンラインでの実施となりました。

生徒たちは、事前に送っていただいた英語の要旨を読んで、専門用語などを予習したうえで、講義に臨みました。英語の授業で聞クリスニングに比べて話すスピードが速く、内容も専門的で高度でしたが、一生懸命聞きたろうとしていました。



大学の研究内容に関心を高めるとともに、英語を学ぶ必要性を強く感じたようです。

<生徒の感想>

- ・英語で科学の話を詳しく聞くことはないので、とてもいい経験になった。また挑戦したい。
- ・外国の人から自分たちに向けて話をしていただき、わくわくした。留学や研究室の話が聞けて良かった。
- ・高度な内容で、さらに英語であったため、少ししか理解できなかった。英語の勉強をもっと頑張ろうと思った。
- ・オンラインでスピーカーを通した音声だったこともあり、英語を聞き取るのが難しかった。実際に対面して話を聞いたかった。
- ・難しい内容であったが、タンパク質によって広がる可能性、研究の大変さ、繰り返し試行することの大切さがわかった。

貴重な体験を今後に生かして行ってほしいと思います。